古今類句

3

静嘉堂文庫

昭和文庫

後拾雑下
後撰紀上
山家集
風雅巻二
新勅巻四
新古巻六
山家集上
後拾遺長慶
新葉巻三
山家集下
玉葉巻二
風雅雑中
拾玉集一
金葉秋
玉葉夏
山家集上

はのまも三つもかはまて今宮そ
さあるらんあまの河原の夕暮れ
初花のひらけはそめし枝ゆゑ
いとまの山乃ちるとよ三ねそ
あしかもの羽ふるまてに初
ふるかの宮人まつ年の夏
さねまねはやれぬものめよ
後拾遺長慶
今秋のすゑ新方とさぬ伴う
嶺深ゆあしもはさまよ
きぬくのまの紅葉き初
まはしの山ちつまそもむ
雲ちの風ちとの廉の明ちへ
山ちとちの人もの紅葉ちの
ありあはつまそ山ちとりまそ
ちもれ山四ちれ秋のう書

拾大納言雅
兼納言隆季
寺門僧正
右近
中務
式部命婦
中務内侍
安嘉門院四条
順徳院御
大納言実家

風雅雑中
玉葉雑一
拾玉集二
風雅秋下
拾遠愚草
風雅秋上
河内名下
拾玉集一
風雅雑上
後拾遺二
後古今
新古今秋下
拾遠愚草中
古今名
新古今下
同名二
新後古名三
新後拾名三

山陰やうらこえ[illegible]
雲をもかつる久礼山の[illegible]
義[illegible]
新日新[illegible]
うもあひきまつ[illegible]
山里の[illegible]
みやこ[illegible]
谷ふかく[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]秋上　秋風の吹くにつけて萩の葉の[illegible]
[illegible]　道房卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新勅冬
壬生二条上
新葉雑
月清集
新勅雑上
後撰雑上
新後冬
続後撰雑
同
新拾冬
拾遺集二
拾遺愚草上
月清集上
続拾冬
新続古冬
拾遺愚草下
玉葉
新古冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後拾遺
拾玉集
新拾遺
新葉名三
新勅名三
拾玉集一
同四
月清集下
風雅名四
新後名三
風雅名四
新古名四
拾遺愚草上
風雅名一
同名又
壬生二位
拾玉集又
壬生二位下

行人いかにかはしたりけん　なにはの蘆の名にはあれ
ども　ふしのあはれをしらぬ人なしとかやいはれ
たるものを　ふしのあはれをしらぬ人なしとかや
いはれたるものを　ふしのあはれをしらぬ人なし
とかやいはれたるものを　ふしのあはれをしらぬ
人なしとかやいはれたるものを　ふしのあはれを
しらぬ人なしとかやいはれたるものを　ふしの
あはれをしらぬ人なしとかやいはれたるものを
谷川の音は月すむ山の色　松風のこゑは雲ふく
ゆふべ　雲とこそ人はみるらん　雲ふく
人はいかにかはしたりけん　なにはの蘆の名にはあ
れども　ふしのあはれをしらぬ人なしとかやいは
れたるものを　ふしのあはれをしらぬ人なしとか
やいはれたるものを　ふしのあはれをしらぬ人
なしとかやいはれたるものを　ふしのあはれを
しらぬ人なしとかやいはれたるものを　ふしの
あはれをしらぬ人なしとかやいはれたるものを
谷川の音は月すむ山の色　松風のこゑは雲ふく
ゆふべ　雲とこそ人はみるらん　雲ふく
人はいかにかはしたりけん　なにはの蘆の名にはあ
れども　ふしのあはれをしらぬ人なしとかやいは
れたるものを　ふしのあはれをしらぬ人なしとか
やいはれたるものを　ふしのあはれをしらぬ人
なしとかやいはれたるものを　ふしのあはれを
しらぬ人なしとかやいはれたるものを　ふしの
あはれをしらぬ人なしとかやいはれたるものを
谷川の音は月すむ山の色　松風のこゑは雲ふく
ゆふべ　雲とこそ人はみるらん　雲ふく

後三位行義
小侍従
後二位
原定房卿
後二位為子

風雅春中
拾玉集又
山家集上
新古秋上
後撰雅一
新葉春上
後拾遺名三
拾玉集又
詞花雅下
後古歌
月清集下
風雅秋中
後拾春上
拾玉集一
新古雅初
新千名一
拾玉集又

春の夜のあけぬるかとみてねしかども
ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

後古雜部
拾遺哀傷
後千哀傷
彩葉哀傷
拾遺哀傷
風雅旅
拾玉集二
風雅夏
拾玉集七
後古秋上
大和物語
彩後古雜上
後拾賀
後千哀三
後拾雜上
後千雜下
後拾撰春
後拾春上

かくみるもちきりかなのうつりをまつめるくけふ雪ふれはやはるのそらとはつもれやはるのそらとはつもれやはるのそらとはつもれ

新続古雑中
拾遺雑上
続千雑上
新続古四
続拾春上
続古冬
拾遺恋下
続後撰雑中
続後撰雑上
風雅賀
新千秋上
新葉秋上
山家集上
新勅撰
続古
続後拾
新後撰上
玉葉秋上

かすりなれ隙行の素へひとりそ
あまつかりみちも屋そうもあるう
ゆめとて峯みれくよこ雲と
逢事人絶ふもかきそ雲
産の西へつりとや絶て
風そやうれそ雲れ絶そう
いたいとへつねときれ山人を
ちりなるこ乃うちもえ堅乃
こそひとやねてあるしの拂ん
三笠山こねちの絶日新
乃ろ人のこのあるすあるさん
みろ人のくもあるすあるさん
山さはすみ浪まろ氣
鄭公ちか橋乃ちとうかく
印花の陰るうりせへりきれ
ちの面ますむ月影の陽ま
たのむ山きろ山つ山ま
わろあるとろとまあ和りれ

そうふうきたるあれ線
そうにまたるもたるほ
そうにのこてゆ時あ
そうにのこ河といはん
そうにのこゆ雲あ宮
そうよのこてゆ時あ
そうまおとろく月れけ
そうにまま月やちこ
そうにもあまこ山のこの月
そうにうりぬ年代の雲
そうにうりぬ秋のこ月
そうにうりぬ秋の秋月
そうやまれ三河ちん
そうやまれ花ゆちん
そうやけ山のこね拂
そうやあまれ色ひこ
そうやこ乃ちの夢
そうにまこ秋ちの

桂中納言云雄
贈太政大臣
ち陽成院ト
冷泉ち太政天下
恭内大臣
中務卿親王

土御門院御製
花ち恭恭
冷泉ち太政天下
後龍頭院御製
醍醐天皇御製
康資王母
後ち河院御
ち太納言経房
桂中納言成雄卿
衣笠ち内大臣

続古秋下
続後撰
新千春上
続千秋下
後撰古傷
続後拾
続撰秋上
拾遺負上
新後
続拾
拾遺恋上
続千秋下
続千賀
玉葉雑二
壬生二条上
三生二条中
新葉春上

雅をうもんうきて沈まれ
人ちれすまれ地ときみ
志望れ浦や演れえ風雲の
位の沉乃れ人あきせ寺住て
人とそ思ふれひもあるれと
亀のうへれ山とうの人ちの
久望れ平ちうにてれ
秋風のれ吹ちしかタ暮ハ
ちうもにみ一夜の月れ
思ふまを地れりれ人ちの
ちれうう人乃ちのこちまを
独の秋恋ちちかれ
ちあまあけれ雁のひきれ月
其日山れ吹ちの言タれ
ちれ浦ち浦のひちも晴て
山りとハ雲れ雪乃も行も
雁ちう平れ人ちの
そそ人ちの人ちれ
ちにて少ち乃の一行

桂大納言公基
入道二条報恩院
ち大納言兼房
花乃忠房卿
二条ちの内教王
躬恒
ちうへちん
桂中納言師行
法乃良定
乃ち好
ち大納言ちの長
平時継
冷泉天乃ち太下

後撰春下
月清集上
新葉春上
後古今一
玉葉秋上
後拾遺春上
新千秋下
拾遺秋
拾玉集六
風雅秋中
新拾秋下
金葉雜上
後千春下
新後冬
新拾春上
拾玉集三
新後春上
拾遺愚草中

山ざくらかすみのうちに花を吹風
ちりぬきぬの煙やこれなるん
かぜ消て春よ八重も有りけり
ちりぬるかぜやうつるとおもふ
ちりぬるかぜやうつるとおもふ
秋乃月はなさむく物ゝ多きれ
伊勢海のわまにしらるおもて
秋さむなる秋風ふくと
ちりぬるかぜやうつるとおもふ
ちりぬるかぜやうつるとおもふ
ちりぬるかぜやうつるとおもふ

新拾雜上

新續古今
拾玉集二
新千載
拾玉集四
新續古今
拾遺貞外上
新續古今
拾玉集五
新續夏
新古今
月清集
長秋詠藻
詞花雜下
人女
新古春上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古今
同只家
新拾遺
新勅撰
新後拾遺
新拾遺
河花秋
後拾遺雑一
後古冬
拾遺員外
金葉二下
後撰雑二
拾遺員外
拾遺要抄
長秋詠藻下
同中
後古秋下
同器宴

鴨長明
待賢門院
後鳥羽
藤原家隆
大納言実房
懐国法師
平宗時卿
紀貫之
女御徽子

新初夏
正生二上
後拾遺
新古冬
山家集上
月清集上
新拾秋下
新古夏
拾遺要抄
新拾春下
新古春下
正生二中
後拾遺
拾遺要抄
新拾春下
新古秋下
後古冬

後鳥羽
後鳥羽
後鳥羽

拾玉集六　秋社乃和哥ハ
後拾遺雜春　
後拾遺雜春
拾遺雜春
同
浜角
新拾遺傷
後拾冬
拾遺恋五
壬生二条上
後拾冬
拾遺恋五
新勅冬
壬生二条中
同上
拾玉集六
新古今
拾玉集六
同
新古雜上
拾玉集
後拾遺
壬生二条上
拾玉集二
同七
後拾
拾遺恋五
新拾遺傷
同雜上
伊勢物語
拾遺雜上
新古雜上
拾遺賀
壬生二条三

新古雜上
拾遺恋五
同
新古雜上
拾玉集
後拾遺恋五
壬生二条上
拾玉集二
同七
後拾
拾遺恋五
新拾遺傷
同雜上
伊勢物語
拾遺雜上
新古雜上
拾遺賀
壬生二条三

新古今集 秋上
月清集上
同雅経
新葉秋下
新千生二京中
後撰雑二
同雅経中
拾遺愚草
千生二京上
新古今傷
千生二京中
新拾秋下
後拾遺傷
同雅雅上
新古今一
新葉名所

あけぬるかとうのみさきの山ちかくなりぬるかとうのみさきの山ちかくなりぬるかとうのみさきの山ちかくなり

拾遺玉葉上　玉ちるれあれ緑もあれ
後古今傷　乃ちりて世の中はなれ
新古今一　ちるもあるも咲もちるも
拾玉集六　山風の酒うちふくとも
新千首　つゆのうへに初ちるよ
後千首上　世のきはまりあけぬれば
千生二百中　初時あるあけぬれば
拾玉集六　あるさとふるうら板ぶき
新後撰秋下　雲ゆくえてもとまらぬ山
新後拾遺秋下　秋てうんあるかの
風雅月百　法の花ちるすがの山
後古今一　つくしもうん法乃初時
後拾遺雜　わかいくま世ふうき
新後拾遺雜　定ぬきんよりうんく
同雜上　あらうんよりうん今下
後古雜下　うき世をいとはてもつ
拾玉集一　法とりふ思れ海きうん
玉葉六神祇　皆人のつの海ちうん

そもしろ衣　うきもしろ
そもしろあるも咲もちるも　明月記正十
そもしろこのあるもの　沙彌長
そもしろ山風の酒うちふくとも
そもしろ法乃初ちるよ　法乃定乃
そもしろ世の中はなれ　花原定乃
そもしろ初時あるあけぬれば　花原定乃
そもしろ雲ゆくえてもとまらぬ山
そもしろ秋てうんあるかの
そもしろ法乃花ちるすがの山
そもしろ法乃定乃　役二位乃
そもしろ世ふうき　花原定乃
そもしろ定ぬきんよりうん　花原定乃
そもしろ今下　源孝行
そもしろ世をいとはてもつ　大納言良教
そもしろ海きうん
そもしろ皆人の海ちうん　花原乃

新拾雜上　うきもしろ
新後雜中　世の中をいとはてもつ　懷人正親
後千撰雜　老となりてもうき世を　靜信法親王
新千雜下　山ゆく月は今ぞ初時　花原信實卿
後千雜下　つゆのうへにあるかの　中間定家卿
新古雜下　義とも色ぬれぬ　若狭法師
拾遺雜下　ゆく秋乃世をいとはてもつ　惟方親王
風雅雜下　むすばれ今ぞうき世を
同　あるまなかりうき世を云
拾玉集六　うきもしろ人のあるうき世の
拾遺雜下　長月のあるうき世の
後拾雜中　うきもしろ世の
後古雜下　うきもしろ世をいとはてもつ
新古雜下　月ゆく秋乃世をいとはて
同雜上　うき世をいとはてもつ
横海　いとはてもつ
新千月百　いとはてもつ
玉葉雜六　今まてうき世をいとはてもつ

三年上人
花原西寺安
家長
花原定家卿
安嘉門院
花原法師
三條法師

殺衣口　そもそもそれとなくそらさるとせはまはそもそもそれ　秋長國
玉葉雜　いとせんつるかもとへき世中を　そもはかりかもとへき世中を　法皇御歌
同雜二　宿はあれて人のとまりの山風よ　そもはかりかもとへき世中を　後鳥羽院御歌
新後雜中　あれもはてはのこりの山の月　そもさかりの清き浦波　後鳥羽院
新後雜　老の身の立つ涙をなくそ　そもさかりの清き浦波　後伏見院御歌
初風　たれきてはこのうらはあまの　そもさかりの清き浦波
須磨　うらはあらかりしかの世のなこり　そもさかりの清き浦波　光定
拾玉集六　うらの世をいかのうらのなこりつけて　そもさかりの清き浦波　藤原定家
後古今下　なるあつて山のはをはしたの雲　そもさかりの清き浦波
月清集上　和田の浦なつかしもなる海人の　そもさかりの清き浦波
拾玉集二　袖のうへは今はそはもあはれ初く　そもさかりの清き浦波
同三　たるるあはれのうへのあるらんは　そもさかりの清き浦波　小野小町
後古今　むさしのはあるもきけはいはの葉の　そもさかりの清き浦波
拾玉集六　浮世をあるかとの嵐はらの葉　そもさかりの清き浦波　勝定院贈太政大臣
新後古今雜　きむしはるるつもとの刻の　そもさかりの清き浦波
山家集下　浦のうへひとつなりとみせよりは　そもさかりの清き浦波
拾遺愚草上　春の山こさるあるはかの雲は　その羽ぶりやはるるる
同紀雜下　ちるはなはよのうへのうらのなみ　そもさかりの清き浦波　後鳥羽院御歌

拾遺愚草　海のうへのあはれはかりもむ天川　そのかりとちるぬ手枕の
壬生二品上　あはれはかりもちるはとあるかも　そのかりとちるぬ手枕の
後撰雜三　みなかはとはるとせはりあるかも　そのかりとちるぬ手枕の
新古今　あはれはかりはかりはかりはかりはかりは　そのかりとちるぬ手枕の
新後雜　郭公なのうへのうへのうへのうへ　そのかりとちるぬ手枕の
後拾雜上　いとうとうとうとうとうとうとうとう　そのかりとちるぬ手枕の
新後古今　排とる卯月きぬとう郭公　そのかりとちるぬ手枕の
後千載雜　いとうとうとうとうとうとうとうとう　そのかりとちるぬ手枕の
後拾遺雜　四月の月の月の月の月の月の月の月　そのかりとちるぬ手枕の
拾玉集一　夏の月の月の月の月の月の月の月の月　そのかりとちるぬ手枕の
拾遺愚草　春の月の月の月の月の月の月の月の月　そのかりとちるぬ手枕の
新葉雜下　わの月の月の月の月の月の月の月の月　そのかりとちるぬ手枕の
玉葉雜　わの月の月の月の月の月の月の月の月　そのかりとちるぬ手枕の
山家集下　月のうへのうへのうへのうへのうへ　そのかりとちるぬ手枕の
風雜　月の月の月の月の月の月の月の月の月　そのかりとちるぬ手枕の
新古今雜上　神もあるかとあるかとあるかとあるか　そのかりとちるぬ手枕の
後拾雜下　この秋はあるかとあるかとあるかとあるか　そのかりとちるぬ手枕の
新葉雜下　みちのくのあるかとあるかとあるかとあるか　そのかりとちるぬ手枕の

拾遺集下
千載集三
新古今二
月清集下
同
後拾遺雑二
金葉集下
風雅集一
続古今雑中
千載集雑三
新拾雑中
新続古雑中
続古今一
拾玉集二
月清集上
拾玉集三

風雅集下
新勅集三
新後拾雑中
山家集下
新後拾雑
玉葉雑一
山家集下
新拾雑中
新勅集二
拾玉集三
拾遺愚集上
続後撰二
新千載雑
新勅集
拾玉集三
風雅集
新後拾雑
月清集上

拾玉集
新撰雅
新撰雅
同又抄
拾遺貞
子我雅
後拾秋
新後拾雅
後古今
山家集
拾玉集
金葉
長秋詠
玉葉雅
新拾
風雅
拾玉集

山家集
玉葉
拾玉集
玉葉
新後
新後
新後
新後
新後
拾玉集
後撰
後撰
後古雅
月清集
拾玉集
玉葉雅
後千雅
後千雅
新後
月清集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺五
新後拾遺一
詞花賀
後撰秋下
拾遺五草下
狭衣二
古今雜下
新千雜上
後撰秋上
拾玉集一
後拾遺二
後拾遺二
後古秋下
後拾雜上
新拾雜上
千載雜上

梅の花まがふ雪のなかにうぐひすぞなく
ちるかなしらゆきとうちまがふ乃
雁がねのつばさ
あまのさかてに海人のつりなわ
こがれぬ風の海ぞ
うきものの
ひとりぬる山ぢ
月かげの
秋きりの
なかつ海
山ぢ
ゆく
ちりぬる
ちりぬる
ちりぬる

後撰雜二　同秋下　同恋六　新古今　新千載　新拾遺　後撰恋六　新勅恋四　拾遺恋五上　後撰恋下　後撰雜上　玉葉雜一　古今雜列　後拾遺哀傷　同恋二　新後古恋二　千載恋三　新後恋三

かはきそ　なこそ　あをの川　なみの　なこそ　なこそ　なこそ

拾遺雜上　郭公なきつるかたのうらうらの　神主藤原為業
後拾遺巻一　人をなほ思ひ出でられてなりぬれば　藤原為頼
後拾遺巻上　今ぞしる夢ぞ夢なりけるとは　藤原為頼
後拾遺巻三　いにしへをあき草ゆゑ思ひ出で　神主藤原為業
後拾遺巻三　なほ秋ぞ恋しき草ゆゑ　神主藤原為業
後拾遺巻三　ひとりのみ思ひ出でつる草ゆゑ　神主藤原為業
新拾遺巻三　ひとりのみ思ひ出でつる草ゆゑ　神主藤原為業
新後拾遺巻下　ひとりのみ思ひ出でつる草ゆゑ　神主藤原為業
壬生二条中　あかぬ秋ぞ恋しき草の露の玉　神主藤原為業
後古今巻上　あかぬ秋ぞ恋しき草の露の玉　神主藤原為業
新千載上　草の露の玉　神主藤原為業
新古今巻二　草の露の玉　神主藤原為業
後古春上　いくたびか月の出でぬる秋の夜の　神主藤原為業
後千載上　いくたびか月の出でぬる秋の夜の　神主藤原為業
後拾遺巻一　いくたびか月の出でぬる秋の夜の　神主藤原為業
月清集下　いくたびか月の出でぬる秋の夜の　神主藤原為業
拾遺巻第十　あかぬ秋の夜の月　神主藤原為業
後拾遺巻下　あかぬ秋の夜の月　神主藤原為業
後拾遺巻　今ぞしる夢ぞ夢なりけるとは　神主藤原為業
拾遺自撰　今ぞしる夢ぞ夢なりけるとは　神主藤原為業

中務卿親王
平行氏
後拾遺巻下
大納言長良
後二条院製
大江匡房朝臣女

藤原為業

後拾雜上　浪とのみ聞きわたされし秋の海の　中務卿親王
月清集上　桂の月もさえて澄みけるかな　藤原為業
拾玉集六　おのがさして命もなれぬ秋の露　藤原為業
新後拾遺巻　おのがさして命もなれぬ秋の露　藤原為業
後千載巻一　おのがさして命もなれぬ秋の露　藤原為業
同秋上　萩の葉の白露ばかりなる　藤原為業
後撰巻三　人をなほ思ひ出でられぬ秋の夜の　藤原為業
後拾遺巻三　人をなほ思ひ出でられぬ秋の夜の　藤原為業
山家集下　あかぬ秋の夜の月ぞ恋しき　藤原為業
拾遺自撰上　ひとりのみ思ひ出でつる秋の夜の　藤原為業
千載雜中　思ひ出でられぬる山ぞ恋しき　藤原為業
山家集下　思ひ出でられぬる山ぞ恋しき　藤原為業
新後拾遺巻一　秋の夜の月ぞ恋しき　藤原為業
玉葉雜一　秋の夜の月ぞ恋しき　藤原為業
新後撰巻上　秋の夜の月ぞ恋しき　藤原為業
後拾遺巻　秋の夜の月ぞ恋しき　藤原為業
大和物語　なほ秋ぞ恋しき草の露の玉　藤原為業

後二位藤原為
亀山院御製
藤原為頼朝臣
藤原為業
藤原為業
藤原為業

新拾秋下　蓮とつる秋のくれ　うそとよ　白河院
新後拾雜上　世の中はうれしかりけり　うそとなく　權中納言長雄
新千載秋上　ちりはてぬ　うそ　大江匡房
新後撰秋上　立ちぬ　うそ　太上天皇
千載秋上　ちるはなを　うそ　長受法師
新古秋上　分ちえぬ　うそ　相模
新拾雜上　立ちて　うそ　太上天皇
新後拾雜春　花ちりて　うそ　律師國實
新千秋下　春の雪も　うそ　法師親
山家集上　あれはてぬ　うそ　
新千載秋上　ながりぬ　うそ　西行法師
新古秋上　ながめつる　うそ　
新後撰秋下　ながめつる　うそ　西行法師
新後拾雜秋　ながめつる　うそ　
新後撰秋下　ながめつる　うそ　
長秋詠藻　
壬生二位上　ちぬ人　うそ　
新後撰秋下　ちぬ人　うそ　
風雅秋上　白露の　うそ　

新古秋上　ありあけの　うそ　
新後撰秋上　ありあけの　うそ　
新後拾雜秋　ありあけの　うそ　
新後撰秋下　ありあけの　うそ　
拾遺愚草　
新後撰秋下　ありあけの　うそ　
新後拾雜秋　
新後撰秋上　ありあけの　うそ　
新千載秋上　ありあけの　うそ　
新古雜上　ありあけの　うそ　
新千秋上　ありあけの　うそ　
新拾遺秋下　ありあけの　うそ　
新後撰秋下　ありあけの　うそ　
新後拾雜秋　ありあけの　うそ　
新後撰秋上　ありあけの　うそ　
新後拾雜秋　ありあけの　うそ　
新後撰秋下　ありあけの　うそ　
新後拾雜秋　ありあけの　うそ　
新後撰秋上

拾遺雲上　おもひあまりそらにみちぬるかな
同下　山姫のくもをぬきとるとみるまでに
新後古雲　そらにみちぬるかな
吹風のさそひきたれるあきの雲や
玉葉雑一　思ひ妻のうへをかけつる雲
壬生二京上　あはれとやかの山ぶしの雲
新要雑下　つるの羽をかりてとぶらむ
千載雲一　人目をつつむと思ふ雲
新勅雲一　人のこころにうかぶ雲
新後雲一　雲をもとめてまよふ雲
山家集上　あのかたみなる雲
壬生二京中　いつくにか雲のたちかくれ
新後雲雜　ぬるらん今はこなん雲
拾玉集二　りてんのつるまつ雲
新後雲雜　雲にまぎれぬるかな
後鳥羽上　雲のかたにかくれぬる
拾遺夏下　ほとゝぎす雲のうへ
新後夏上　雲のうへにかくれぬる
後鳥羽上　ほとゝぎす雲のうへ
拾遺秋上　雲のうへにかくれぬる
同清集上　雲のうへにかくれぬる
壬三二京中　雲のうへにかくれぬる
後鳥羽上　雲のうへにかくれぬる
新後古雲　雲のうへにかくれぬる
壬生二京上　雲のうへにかくれぬる
後拾遺雜

新拾秋上　飛鳥風吹衣ぬぎ捨て秋の山　孫　宰相有忠
拾玉集七　秋雲のたれはさらぬ夕ぐれ　贈従三位為子
新拾巻一　世の人はたれかうらぶれ悲しきに　為子流歌
後拾雑上　海ちかき山のそばたつ秋の月　雅経
新古巻四　乃ち人乃行もけとあり清見ヶ浦の西の方
壬生二巻上　そもそもつて扇乃ゆるよう風色
同中　張りつめよ出り清水あり　そもそも涼き松れ下風
新葉夏　なかめつる芦ヶ原の夏の夕　あまの川の夏の夕
山家集下　夜ふかうつり夏の夕ぐれ　そもそもすずしきみすのうち
新後古巻一　そもそもつる夏の夕ぐれ　そもそもつる夏の夕ぐれ
拾遺巻上　そもそもつる夏の夕ぐれ　そもそもつる夏の夕ぐれ
同　義霸乃ちそて乃山西り移せ　源満祐
秋の野ふかくなりぬる宿ぬ　そもそもつる夏の夕ぐれ
玉葉雑四　かくしれ清水の夏の夕ぐれ　そもそもつる夏の夕ぐれ
新拾夏　なあ夕ぐれ松のうち風涼　そもそもあ世きの夏の夕ぐれ
風雅巻三　いせの海ちかきの夏の夕ぐれ　そもそもすまの浦の夏の夕ぐれ
新後巻一　あの夏のうち涼まの夕ぐれ　中務卿宮尊良親王　冬河
拾玉集六　あの夏のうち涼まの夕ぐれ　前右大臣　冬河
新後巻三　山城の淀の夏の夕ぐれ　静仁法親王　源有忠

新拾雑上　遠き里の夏の夕ぐれ　大宮内大臣　源有忠
新後撰雑　かくれ家の夏の夕ぐれ　大宮内大臣　源有忠
新後巻一　夏の夕ぐれ　源有忠
新後巻三　今ぞつくづくと夏の夕ぐれ　源有忠
新後巻三　ながめつる夏の夕ぐれ　源有忠
拾遺夏上　きりぎりすなく夏の夕ぐれ　源有忠
新後古巻上　夏の夕ぐれ　源有忠
新後拾遺　野ぶの夏の夕ぐれ　源有忠
長秋詠藻　あの夏の夕ぐれ　源有忠
月清集　ながめつる夏の夕ぐれ　源有忠
風雅巻上　九重やまの夏の夕ぐれ　源有忠
壬生二巻中　早苗ぬる夏の夕ぐれ　源有忠
月清集下　そもそもつる夏の夕ぐれ　源有忠
新後古巻上　池の水の夏の夕ぐれ　源有忠
拾玉集三　うち風の夏の夕ぐれ　源有忠
古今秋下　夏の夕ぐれ　源有忠
壬生二巻中　人の夏の夕ぐれ　源有忠
新拾雑四　秋の夏の夕ぐれ　源有忠

張古雑上　長秋詠藻
捨玉集六　月清集上
捨玉集七　捨遺愚草上
新拾雑上　玉葉六之三
新古今六　捨遺愚草上
新古今六　張古秋上
張古雑上　同雑中
新拾雑中　明石
後拾遺雑上　後撰雑
新古今一　張古秋上
張拾雑中　新後拾遺
新後拾遺　張古秋下
新後拾遺　張古秋上
新後拾遺　同秋上
新後拾遺　同雑中
新後拾遺　新拾遺雑
新後拾遺　明石
新後拾遺　後撰雑
新後拾遺　新後拾遺
新後拾遺　張古秋下
新後拾遺　張古秋上
新後拾遺　張拾雑中
新後拾遺　新後拾遺
新後拾遺　新古今秋上
新後拾遺　張古秋上
新後拾遺　新後拾遺
新後拾遺　新後拾遺
新後拾遺　同中

源氏物語　七夕　雲のうへも涼しかるべき夕ばえ
新古今　たなばたの天の川原の夕ばえ
新勅撰三　きぬぎぬ　ながきはるの夜の夢
源氏物語　月　月の出の遅かりしかば
新勅撰三　夜　夜毎に月の出でぬるかな
拾遺雲雨上　ながめ　ながめ　月
新古今三　月　月の影やうやうあらはれ
源氏物語　拾遺三　月　月の影やうやうあらはれ
同夜
源氏物語　月　月の出でぬるかな
新古今　拾雜長　月　月の出でぬるかな
新葉夜　昔　昔
源氏物語　拾夜　月　月の影やうやうあらはれ
新古今秋上　月　月の影やうやうあらはれ
拾遺雲雨上　月　月の出でぬるかな
壬生二荒上　月　月の影やうやうあらはれ
拾遺雲雨上　月　月の出でぬるかな

源氏物語　月　月の出の遅かりしかば
源氏物語　月　月の出の遅かりしかば
源氏物語　月　月の出の遅かりしかば

後拾遺傷
金葉雑上
後千雑上
新拾哀傷
後撰冬
後拾遺冬
壬生三条中
後拾冬
新拾冬
新勅哀
月清集上
新勅哀
新後拾冬
後古雑上
拾遺雑春
後撰哀
後撰冬
後撰哀
後撰冬
後撰哀
後撰冬

新古今春上
新勅撰二
張文秋上
拾遺集下
新勅撰二
張文撰雜上
古今春上
張文撰雜上
同秋上
新勅撰上
張文秋上
壬生二条上
新後撰上
壬生二条下
拾遺集下
同
新後撰
張文撰雜上
張文秋上
新勅撰上
張文撰雜上
新古今
月清集下
新勅撰
張文撰雜上
張文秋上
新古今
新勅撰
張文撰雜上
新古今
新勅撰
張文撰雜上
新古今
新勅撰
張文撰雜上
新勅撰上
拾遺集上
風雅
拾遺集
張文撰雜上
新勅撰上

千載集傷

新後拾遺雜上

張古今一

拾遺愚上

新拾冬

千生二上

拾遺公夫

新古秋下

新古覇花

月清集一

新古冬

後拾遺雜

後撰公宗

玉葉秋上

新拾雜上

新古秋下

張文綱

拾遺雜上

新古上

新勅雜

新後拾雜上

新勅雜下

新後拾秋

玉葉冬

新古雜下

新後拾雜秋

張後撰公

張拾雜上

拾玉集冬

千載雜上

拾遺貞外

張後拾秋下

新後拾冬

同新月

同

御製

道信朝臣

後撰朝臣

二條院讃岐

玉葉冬

夫宰相中將

後撰

新古秋下

千載雜上

拾遺愚上

新後拾雜

新後拾秋

張後撰公

拾玉集冬

千載雜上

拾遺貞外

張後拾秋下

新後拾冬

同新月

拾遺愚上

千生忠岑

後撰朝臣

源重之

後撰

後同三月

実方中將

花下文時

実方下

後撰雜上
風雅雜下
拾玉集二
新拾遺
新千載雜
新拾秋下
新後撰雜
新拾秋下
新後撰雜
玉葉雜一
拾玉集
新勅雜二
玉葉冬
新拾遺傷
壬生二条上
長秋詠藻
後古今秋
拾玉集
新拾冬
拾玉集一
後撰雜一
新千載上
新後拾冬
拾玉集一